

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第5511623号
(P5511623)

(45) 発行日 平成26年6月4日(2014.6.4)

(24) 登録日 平成26年4月4日(2014.4.4)

(51) Int.Cl.

A61B 1/04 (2006.01)
G02B 23/24 (2006.01)

F 1

A 6 1 B 1/04 3 7 O
G 0 2 B 23/24 B

請求項の数 8 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2010-235731 (P2010-235731)
 (22) 出願日 平成22年10月20日 (2010.10.20)
 (65) 公開番号 特開2012-85866 (P2012-85866A)
 (43) 公開日 平成24年5月10日 (2012.5.10)
 審査請求日 平成25年8月26日 (2013.8.26)

(73) 特許権者 000113263
 HOYA株式会社
 東京都新宿区中落合2丁目7番5号
 (74) 代理人 100090169
 弁理士 松浦 孝
 (74) 代理人 100147762
 弁理士 藤 拓也
 (72) 発明者 魁生 諭
 東京都新宿区中落合2丁目7番5号 HO
 YA株式会社内

審査官 門田 宏

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内視鏡装置及び内視鏡装置の制御方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プログラムを記憶するプロセッサ記憶部と、前記プロセッサ記憶部に対してプログラムを読み書きするプロセッサ制御部とを備えるプロセッサと、

プログラムを記憶するスコープ記憶部と、前記スコープ記憶部に対してプログラムを読み書きするスコープ制御部とを備えるスコープとを備え、

前記プロセッサ制御部は、外部から第1のプログラムを読み込んで前記プロセッサ記憶部に書き込み、かつ前記スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムを前記スコープ制御部を介して読み出して前記プロセッサ記憶部に書き込んだ後に、前記第1のプログラムを前記スコープ制御部に送信し、

前記スコープ制御部は、前記第1のプログラムを受信して前記スコープ記憶部に書き込み、そして前記スコープ記憶部に書き込まれている前記第1のプログラムを検査し、これによりエラーが見つかった場合には、前記プロセッサ制御部は、前記第2のプログラムを前記スコープ制御部に送信し、前記スコープ制御部は、前記第2のプログラムを受信して前記スコープ記憶部に書き込む内視鏡装置。

【請求項 2】

前記スコープ制御部は、前記スコープ記憶部に書き込まれている前記第1のプログラムを検査し、これによりエラーが見つからなかった場合には、前記プロセッサ制御部は、前記プロセッサ記憶部に記憶されている前記第2のプログラムを消去する請求項1に記載の内視鏡装置。

【請求項 3】

前記プロセッサ制御部は、前記第1のプログラムを前記スコープ制御部に送信した後に、前記プロセッサ記憶部に記憶されている前記第1のプログラムを消去する請求項1又は2に記載の内視鏡装置。

【請求項 4】

前記プロセッサ記憶部は、第1の記憶部と第2の記憶部とを備え、前記第1の記憶部は、外部から読み込まれた前記第1のプログラムを記憶し、前記第2の記憶部は、前記スコープ記憶部に記憶されている前記第2のプログラムを記憶する請求項1から3のいずれかに記載の内視鏡装置。

【請求項 5】

前記第1のプログラムは、バージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有し、

前記プロセッサ制御部は、前記第1のプログラムの前記識別情報が前記スコープの識別情報と一致し、かつ前記第1のプログラムの前記バージョン情報が前記第2のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、前記第1のプログラムを前記スコープ制御部に送信する請求項1から4のいずれかに記載の内視鏡装置。

【請求項 6】

前記第1のプログラムは、バージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有し、

前記プロセッサ制御部は、前記第1のプログラムの前記識別情報が前記スコープの識別情報と一致し、かつ前記第2のプログラムの前記バージョン情報が前記第1のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、前記スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムを前記スコープ制御部を介して読み出して前記プロセッサ記憶部に書き込む請求項1から5のいずれかに記載の内視鏡装置。

【請求項 7】

プログラムを記憶するプロセッサ記憶部と、前記プロセッサ記憶部に対してプログラムを読み書きするプロセッサ制御部とを有するプロセッサと、スコープ記憶部と、前記スコープ記憶部に対してプログラムを読み書きするスコープ制御部とを有するスコープとを備える内視鏡装置の制御方法であって、

前記プロセッサ制御部が、外部から第1のプログラムを読み込んで前記プロセッサ記憶部に書き込み、かつ前記スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムを前記スコープ制御部を介して読み出して前記プロセッサ記憶部に書き込むステップと、

前記スコープ制御部が、前記第1のプログラムを前記スコープ記憶部に書き込むステップと、

前記スコープ制御部が、前記スコープ記憶部に書き込まれている前記第1のプログラムを検査するステップと、

前記検査するステップにおいて前記第1のプログラムにエラーが見つからなかった場合に、前記プロセッサ制御部が、前記プロセッサ記憶部に記憶されている前記第2のプログラムを消去するステップと、

前記検査するステップにおいて前記第1のプログラムにエラーが見つかった場合に、前記スコープ制御部が、前記第2のプログラムを前記スコープ記憶部に書き込むステップと、

前記プロセッサ制御部が、前記プロセッサ記憶部に記憶されている前記第1のプログラムを消去するステップとを備える内視鏡装置の制御方法。

【請求項 8】

前記第1のプログラムはバージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有し、

前記第1のプログラムの前記識別情報が前記スコープの識別情報と一致し、かつ前記第2のプログラムの前記バージョン情報が前記第1のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、前記プロセッサ制御部が、前記スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムを前記スコープ制御部を介して読み出して前記プロセッサ記憶部に書き込むステップとをさらに備える請求項7に記載の内視鏡装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】

10

20

30

40

50

【技術分野】**【0001】**

本発明は、更新可能なファームウェアを有する内視鏡装置及びその制御方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

内視鏡装置は、被験者の体内に挿入されるスコープと被験者の体外に設けられて画像処理を行うビデオプロセッサとを備える。スコープの動作を制御するMPUと、MPUのファームウェアを記録するメモリとがスコープの内部に設けられる。

【0003】

ユーザは、外部とのインターフェースを介して、メモリに記憶されたファームウェアを書き換え可能である（特許文献1）。ファームウェアは、画像やプログラムなど様々な情報を含み、スコープの性能を向上させ、かつ機能を追加するために書き換えられる。10

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献1】特開2005-185691号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

ファームウェアをスコープに書き込むとき、ファームウェアの破損、あるいは突然の電源断等の原因により書き込みを失敗することがある。書き込みを失敗するとスコープが正常に動作しなくなる虞がある。さらに、一度正常に動作しなくなったスコープに再度ファームウェアを書き込んで正常な状態にすることは一般ユーザにとって困難である。20

【0006】

本発明はこれらの問題に鑑みてなされたものであり、ファームウェアをメモリに書き込み損じてもスコープが正常に機能する内視鏡装置及びその制御方法を得ることを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本願第1の発明による内視鏡装置は、プログラムを記憶するプロセッサ記憶部と、プロセッサ記憶部に対してプログラムを読み書きするプロセッサ制御部とを備えるプロセッサと、プログラムを記憶するスコープ記憶部と、スコープ記憶部に対してプログラムを読み書きするスコープ制御部とを備えるスコープとを備え、プロセッサ制御部は、外部から第1のプログラムを読み込んでプロセッサ記憶部に書き込み、かつスコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムをスコープ制御部を介して読み出してプロセッサ記憶部に書き込んだ後に、第1のプログラムをスコープ制御部に送信し、スコープ制御部は、第1のプログラムを受信してスコープ記憶部に書き込み、そしてスコープ記憶部に書き込まれている第1のプログラムを検査し、これによりエラーが見つかった場合には、プロセッサ制御部は、第1のプログラムをスコープ制御部に送信し、スコープ制御部は、第1のプログラムを受信してスコープ記憶部に書き込むことを特徴とする。30

【0008】

スコープ制御部は、スコープ記憶部に書き込まれている第1のプログラムを検査し、これによりエラーが見つからなかった場合には、プロセッサ制御部は、プロセッサ記憶部に記憶されている第2のプログラムを消去することが好ましい。

【0009】

プロセッサ制御部は、第1のプログラムをスコープ制御部に送信した後に、プロセッサ記憶部に記憶されている第1のプログラムを消去してもよい。

【0010】

プロセッサ記憶部は、第1の記憶部と第2の記憶部とを備え、第1の記憶部は、外部から読み込まれた第1のプログラムを記憶し、第2の記憶部は、スコープ記憶部に記憶され40

ている第2のプログラムを記憶することが好ましい。

【0011】

第1のプログラムは、バージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有し、プロセッサ制御部は、第1のプログラムの識別情報がスコープの識別情報と一致し、かつ第1のプログラムのバージョン情報が第2のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、第1のプログラムをスコープ制御部に送信してもよい。

【0012】

第1のプログラムは、バージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有し、プロセッサ制御部は、第1のプログラムの識別情報がスコープの識別情報と一致し、かつ第2のプログラムのバージョン情報が第1のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムをスコープ制御部を介して読み出してプロセッサ記憶部に書き込んでもよい。

10

【0013】

本願第2の発明による内視鏡装置の制御方法は、プロセッサ記憶部に記憶されているプログラムをスコープ記憶部に書き込む内視鏡装置の制御方法であって、外部から第1のプログラムを読み込んでプロセッサ記憶部に書き込み、かつスコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムをスコープ制御部を介して読み出してプロセッサ記憶部に書き込むステップと、第1のプログラムをスコープ記憶部に書き込むステップと、スコープ記憶部に書き込まれている第1のプログラムを検査するステップと、検査するステップにおいて第1のプログラムにエラーが見つからなかった場合に、プロセッサ記憶部に記憶されている第2のプログラムを消去するステップと、検査するステップにおいて第1のプログラムにエラーが見つかった場合に、第1のプログラムをスコープ記憶部に書き込むステップと、プロセッサ記憶部に記憶されている第1のプログラムを消去するステップとを備えることを特徴とする。

20

【0014】

第1のプログラムが、バージョン情報及び対応するスコープの識別情報を有するステップと、第1のプログラムの識別情報がスコープの識別情報と一致し、かつ第2のプログラムのバージョン情報が第1のプログラムのバージョン情報よりも新しい場合に、スコープ記憶部に記憶されている第2のプログラムをスコープ制御部を介して読み出してプロセッサ記憶部に書き込むステップとをさらに備えてよい。

30

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、ファームウェアをメモリに書き込み損じてもスコープが正常に機能する内視鏡装置及びその制御方法を得る。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】第1の実施形態による内視鏡装置を示したブロック図である。

【図2】第1のファームウェア更新処理を示すフローチャートである。

【図3】メモリの各領域に記憶されるデータを示した図である。

【図4】第2の実施形態による第2のファームウェア更新処理を示すフローチャートである。

40

【図5】メモリの各領域に記憶されるデータを示した図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、本発明の第1の実施形態による内視鏡装置100について添付図面を参照して説明する。

【0018】

図1を用いて内視鏡装置100の構成について説明する。内視鏡装置100は、被験者の体内に挿入されるスコープ200と、被験者の体外に設けられて画像処理を行うビデオプロセッサ300とを主に備える。

50

【0019】

スコープ200は、被験者の体内に挿入される挿入部210と、術者が保持する操作部220と、スコープ記憶部222とを主に備える。図示しないコネクタにより操作部220がスコープ200と接続される。

【0020】

挿入部210は、可撓性の管状体であって、被写体に接近する遠位端部211と操作部220に接続される近位端部212とを有する。遠位端部211には、撮像レンズ213、照明レンズ214、及び撮像素子であるCCD215が設けられる。

【0021】

撮像レンズ213はCCD215に被写体像を結像させる。CCD215は結像した被写体像を撮像し、アナログ信号出力線216を介してアナログ画像信号を出力する。10

【0022】

操作部220から挿入部210に渡ってライトガイドファイバ218が設けられる。ライトガイドファイバ218は、ビデオプロセッサ300が生成した照明光を照明レンズ214まで運び、照明レンズ214は、照明光を被写体に向けて照射する。

【0023】

操作部220は、アナログ信号処理部223、制御部を成す内視鏡MPU221、及び不揮発性メモリから成るスコープ記憶部222を有する。

【0024】

アナログ信号処理部223は、アナログ信号出力線216を介してCCD215からアナログ画像信号を受信する。そして、アナログ画像信号を画像処理して画像信号を生成した後、画像信号線219を介して画像信号をビデオプロセッサ300に送信する。20

【0025】

内視鏡MPU221は、CCD制御信号線217を介してCCD制御信号をCCD215に送信し、CCD215の動作を制御する。内視鏡MPU221が実行するファームウェアは、スコープ記憶部222に記憶される。スコープ200の電源が入れられると、内視鏡MPU221はスコープ記憶部222からファームウェアを読み出して実行する。

【0026】

操作部220は、図示しない複数のスイッチ等を有する。ユーザは、これらのスイッチを操作して内視鏡装置100及びビデオプロセッサ300の動作を制御する。これらのスイッチをユーザが操作すると、スイッチが操作された旨を示す操作信号が内視鏡MPU221に送信される。内視鏡MPU221は、操作信号に応じてスコープ200の動作を制御する。また、ビデオプロセッサ300が行う動作に対応するスイッチが操作されると、内視鏡MPU221は、操作信号をビデオプロセッサMPU301に送信する。ビデオプロセッサMPU301は、操作信号に応じてスコープ200の動作を制御する。30

【0027】

ビデオプロセッサ300は、プロセッサ制御部を成すビデオプロセッサMPU301、不揮発性メモリから成る第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307、外部インターフェース302、フロントパネル303、画像信号処理部304、光源305を主に有する。40

【0028】

ビデオプロセッサMPU301は、ビデオプロセッサ300の動作を制御する。内視鏡MPU221とビデオプロセッサ300は、UARTを各々有し、制御信号線312を介して互いに接続される。

【0029】

第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307は、ビデオプロセッサMPU301に接続され、ビデオプロセッサMPU301及び画像信号処理部304等のファームウェアを記憶する。

【0030】

外部インターフェース302は、例えばUSBであって、内視鏡装置100の外部に設50

けられるＵＳＢメモリとビデオプロセッサ300とを接続する。ＵＳＢメモリに記憶されているデータファイルは、外部インターフェース302を介してビデオプロセッサＭＰＵ301に送信される。ビデオプロセッサＭＰＵ301は、制御信号線312を介してデータファイルを第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307に記憶し、あるいは内視鏡ＭＰＵ221に送信する。

【0031】

フロントパネル303は、ビデオプロセッサ300の外面に露出し、内視鏡装置100の動作状況を表示する。画像信号処理部304は、スコープ200から受信した画像信号を画像処理して、モニタ400に出力する。光源305はビデオプロセッサ300に制御され、ライトガイドファイバ218に照明光を供給する。

10

【0032】

次に、図2及び図3を用いて第1のアップデート処理について説明する。第1のアップデート処理は、外部から受信したファームウェアをスコープ記憶部222に書き込む処理であって、スコープ200の電源が投入されたときに、ビデオプロセッサＭＰＵ301及び内視鏡ＭＰＵ221により実行される。具体的には、現在内視鏡ＭＰＵ221が使用しているファームウェアであるAプログラムをBプログラムに書き換える処理である。

【0033】

ステップS201では、内視鏡装置100の外部に設けられたメモリ（外部メモリ）からBプログラムをビデオプロセッサＭＰＵ301が読み込み、ステップS202では、Bプログラムを第2のプロセッサ記憶部（第2のメモリ）307に記憶する。

20

【0034】

図3のステップS31は、ステップS201及びS202における動作が完了した後ににおける第1のプロセッサ記憶部（第1のメモリ）306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306は何も記憶せず、第2のプロセッサ記憶部307はAプログラム、Bプログラム、及びCプログラムを記憶し、スコープ記憶部222はAプログラム及びユーザ情報を記憶している。ここで、Aプログラム、Bプログラム、及びCプログラムは、内視鏡ＭＰＵ221のファームウェアであって、Aプログラムは現在スコープ記憶部222に記憶されて内視鏡ＭＰＵ221の動作に使用されている。そして、Bプログラムは、Aプログラムよりも新しいファームウェアである。

30

【0035】

ステップS203では、スコープ記憶部222（スコープメモリ）からAプログラムを読み出し、次のステップS204では、読み出したAプログラムを第1のプロセッサ記憶部306に書き込む。すなわち、Aプログラムがスコープ記憶部222から第1のプロセッサ記憶部306にコピーされる。

【0036】

図3のステップS32は、ステップS203及びS204における動作が完了した後ににおける第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306はAプログラムを記憶し、第2のプロセッサ記憶部307及びスコープ記憶部222はステップS31から変化しない。

40

【0037】

ステップS205では、第2のプロセッサ記憶部307からBプログラムを読み出し、読み出したBプログラムをスコープ記憶部222に書き込む。

【0038】

図3のステップS33は、ステップS205における動作が完了した後ににおける第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307はステップS32から変化せず、スコープ記憶部222はBプログラム及びユーザ情報を記憶する。

【0039】

50

ステップS206では、スコープ記憶部222に書き込まれたBプログラムが正しく動作するか否かを確認する。そして、正しく動作しない場合、処理はステップS207においてステップS208に進み、正しく動作する場合、処理はステップS209に進む。

【0040】

スコープ記憶部222に書き込まれたBプログラムが正しく動作しない場合について説明する。処理がステップS207からステップS208に進むと、ステップS208では、第1のプロセッサ記憶部306からAプログラムを読み出し、読み出したAプログラムをスコープ記憶部222に書き込む。すなわち、Aプログラムが第1のプロセッサ記憶部306からスコープ記憶部222にコピーされる。これにより、動作しないBプログラムがスコープ記憶部222から削除され、正しく動作するAプログラムがスコープ記憶部222に書き込まれる。10

【0041】

図3のステップS34は、ステップS208における動作が完了した後における第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307はステップS33から変化せず、スコープ記憶部222はAプログラム及びユーザ情報を記憶する。。

【0042】

ステップS209では、第2のプロセッサ記憶部307からBプログラムを消去し、次のステップS210では、第1のプロセッサ記憶部306からAプログラムを消去する。20そして、処理が終了する。

【0043】

図3のステップS35は、Bプログラムが正しく動作しない場合においてステップS209及びS210が完了した後の第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306は何も記憶せず、第2のプロセッサ記憶部307はAプログラム及びCプログラムを記憶し、スコープ記憶部222はAプログラム及びユーザ情報を記憶する。

【0044】

スコープ記憶部222に書き込まれたBプログラムが正しく動作する場合について説明する。処理がステップS207からステップS209に進むと、ステップS209では、第2のプロセッサ記憶部307からBプログラムを消去し、次のステップS210では、第1のプロセッサ記憶部306からAプログラムを消去する。そして、処理が終了する。30

【0045】

図3のステップS36は、Bプログラムが正しく動作する場合にステップS209及びS210が完了した後の第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307はステップS35と同様であるが、スコープ記憶部222はBプログラム及びユーザ情報を記憶する。

【0046】

本実施形態によれば、スコープ200を正しく動作させることができないプログラムがスコープ記憶部222に書き込まれた場合であっても、正しく動作していたプログラムを用いてスコープ200を動かすことができる。40

【0047】

次に、第2の実施形態について説明する。第1の実施形態と同様の構成については同じ符号を付して説明を省略する。第2の実施形態による内視鏡装置100は、第1のアップデート処理の代わりに第2のアップデート処理を実行する。また、本実施形態では、スコープ200の型式毎に決定されるスコープ識別情報、ファームウェアのバージョン、及びファームウェアがデータファイルに格納される。

【0048】

図4及び図5を用いて第2のアップデート処理について説明する。第2のアップデート50

処理は、外部から受信したファームウェアをスコープ記憶部222に書き込む処理であって、ビデオプロセッサMPU301及び内視鏡MPU221により実行される。具体的には、現在内視鏡MPU221が使用しているAプログラムをBプログラムに書き換える処理である。

【0049】

図5のステップS51は、第2のアップデート処理を実行する前の第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。スコープ記憶部222は、現在使用中のファームウェアであるAプログラム、Aプログラムが対応するスコープのスコープ識別情報、そしてAプログラムのバージョンを1つのデータファイルとして記憶している。第2のプロセッサ記憶部307は、ファームウェアであるBプログラム、Bプログラムが対応するスコープのスコープ識別情報、そしてBプログラムのバージョン情報を1つのデータファイルとして記憶している。第1のプロセッサ記憶部306は、何も記憶していない。以下、スコープ識別情報とバージョン情報を併せてプログラムの固有情報と呼ぶ。なお、スコープ記憶部222に記憶されているスコープ識別情報は、スコープ200に固有の情報であるため、本処理において書き換えられない。
10

【0050】

図4を参照すると、初めのステップS401では、スコープ200がビデオプロセッサ300に接続される。次のステップS402では、スコープ記憶部222が記憶するAプログラムの固有情報を、第2のプロセッサ記憶部307が記憶するBプログラムの固有情報と比較する。図5のステップS52を参照すると、第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態はステップS51から変更されない。
20

【0051】

次のステップS403では、現在接続されているスコープ200の型式がBプログラムのスコープ識別情報と一致し、かつBプログラムのバージョンがAプログラムのバージョンよりも新しいか否かを確認する。そして、スコープ識別情報が一致し、かつバージョンが新しい場合、処理はステップS404に進み、そうでない場合、処理はステップS406に進む。
30

【0052】

スコープ識別情報が一致し、かつバージョンが新しい場合について説明する。処理がステップS403からステップS404に進むと、ステップS404において第1のアップデート処理が実行される。第1の実施形態ではプログラムだけが各記憶部に書き込まれたが、本実施形態ではプログラムのバージョン情報を同時に各記憶部へ書き込まれる。これにより、スコープ記憶部222にBプログラムのバージョン情報及びBプログラムが書き込まれる。また本実施形態では、第1のアップデート処理におけるステップS209は実行されない。そのため、ステップS404終了後であっても、第2のプロセッサ記憶部307はBプログラムのバージョン情報及びBプログラムを記憶している。そして、次のステップS405において、スコープ記憶部222に記憶されているプログラムを再度エラーチェックしたのち、処理が終了する。
40

【0053】

図5のステップS53は、ステップS404における動作が完了した後における第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306はAプログラムのバージョン情報及びAプログラムを記憶し、第2のプロセッサ記憶部307はステップS52から変化せず、スコープ記憶部222はスコープ識別情報、Bプログラムのバージョン情報、及びBプログラムを記憶する。

【0054】

スコープ識別情報が一致せず、及び／又はバージョンが新しくない場合について説明する。処理がステップS403からステップS406に進むと、ステップS406において
50

、第2のプロセッサ記憶部307に記憶されているBプログラムのバージョン情報及びBプログラムが削除される。そして次のステップS407において、Aプログラムのバージョン情報及びAプログラムをスコープ記憶部222から読み出して、第2のプロセッサ記憶部307に書き込む。そして、処理を終了する。

【0055】

図5のステップS54は、ステップS407における動作が完了した後における第1のプロセッサ記憶部306、第2のプロセッサ記憶部307、及びスコープ記憶部222の状態を示す。第1のプロセッサ記憶部306及びスコープ記憶部222はステップS52から変化しないが、第2のプロセッサ記憶部307はスコープ識別情報、Aプログラムのバージョン情報、及びAプログラムを記憶する。これにより、常に最新のプログラムが第2のプロセッサ記憶部307に記憶される。

10

【0056】

本実施形態によれば、常に最新のプログラムが第2のプロセッサ記憶部307に記憶されるとともに、第1の実施形態と同様の効果を得る。

【0057】

いずれの実施形態においても、外部に設けられたコンピュータに制御信号線312を直接接続することによって、スコープ200とコンピュータとを接続し、コンピュータからスコープ200にデータファイルを直接送信しても良い。

【0058】

また、撮像素子はCCD215に限定されない。

20

【0059】

外部インターフェース302は、例えばRS-232Cであってもよく、内視鏡装置100の外部に設けられるコンピュータとビデオプロセッサ300とを接続する。この場合、外部に設けられたコンピュータは、外部インターフェース302を介してファームウェアをビデオプロセッサMPU301に送信する。

【0060】

ファームウェアは圧縮されて内視鏡装置100に送信されても良い。送受信時間を短縮し、第1のプロセッサ記憶部306及び第2のプロセッサ記憶部307の記憶領域を節約できる。圧縮アルゴリズムとしてランレンゲス符号化等が用いられる。

【符号の説明】

30

【0061】

100 内視鏡装置

200 スコープ

210 挿入部

211 遠位端部

212 近位端部

213 撮像レンズ

214 照明レンズ

215 CCD

216 アナログ信号出力線

40

217 CCD制御信号線

218 ライトガイドファイバ

219 画像信号線

220 操作部

221 内視鏡MPU

222 スコープ記憶部

223 アナログ信号処理部

300 ビデオプロセッサ

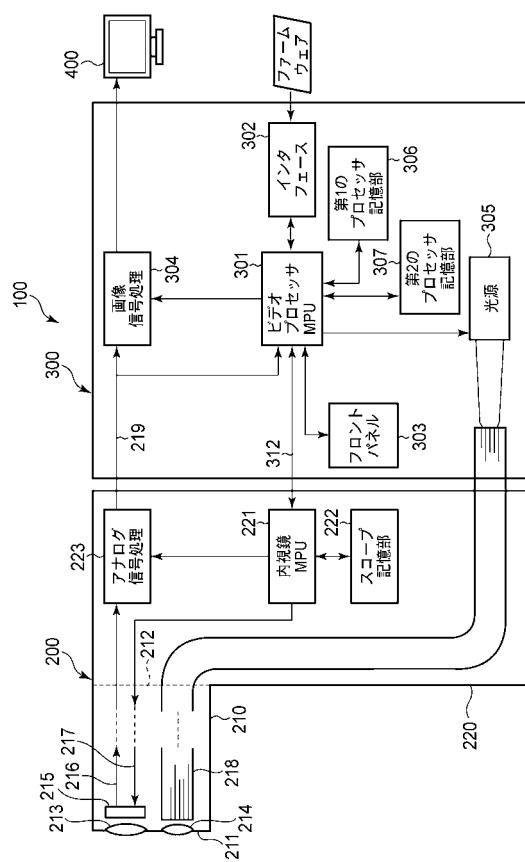
301 ビデオプロセッサMPU

302 外部インターフェース

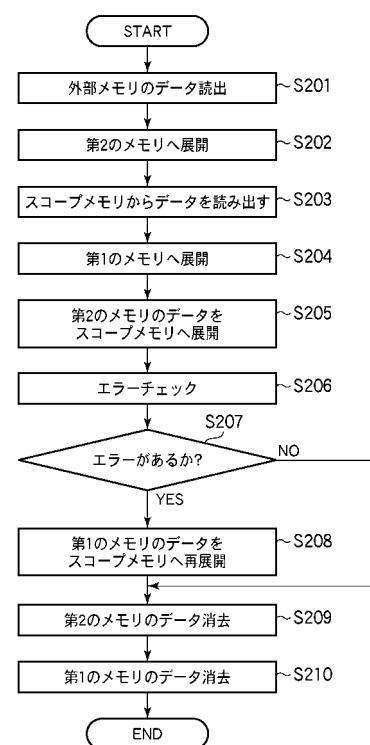
50

- 3 0 3 フロントパネル
 3 0 4 画像信号処理部
 3 0 5 光源
 3 0 6 第1のプロセッサ記憶部
 3 0 7 第2のプロセッサ記憶部
 3 1 2 制御信号線
 4 0 0 モニタ

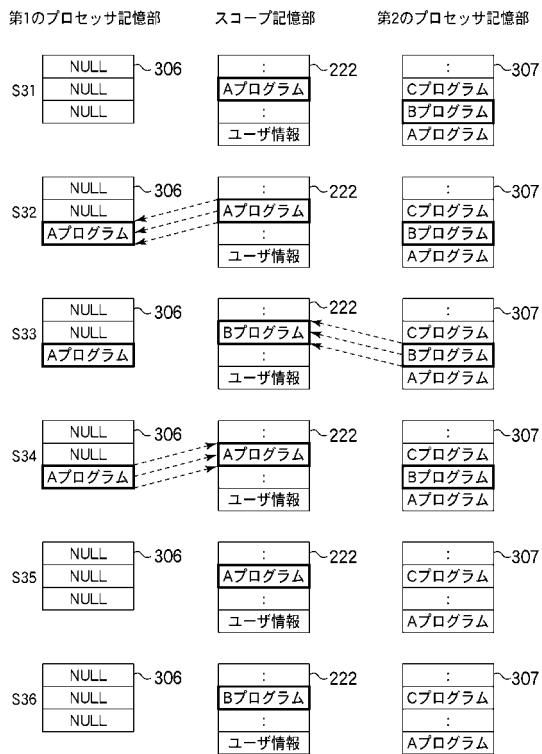
【図1】



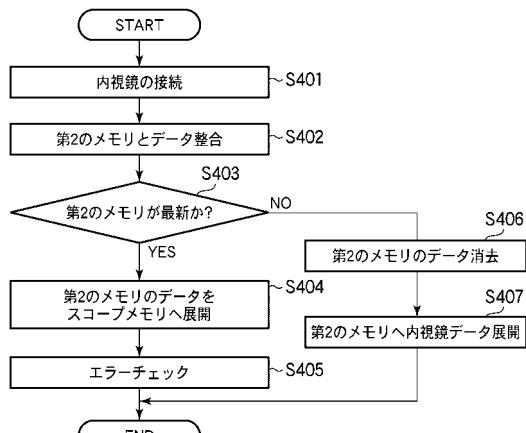
【図2】



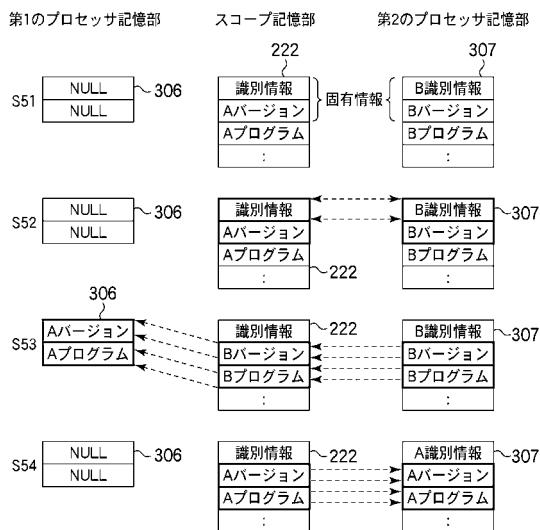
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2009-034450(JP,A)
特開2008-123512(JP,A)
特開2008-104535(JP,A)
特開2005-137401(JP,A)
特開2001-281557(JP,A)
特開2007-061234(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 61 B 1 / 0 0 - 1 / 3 2
G 02 B 2 3 / 2 4 - 2 3 / 2 6